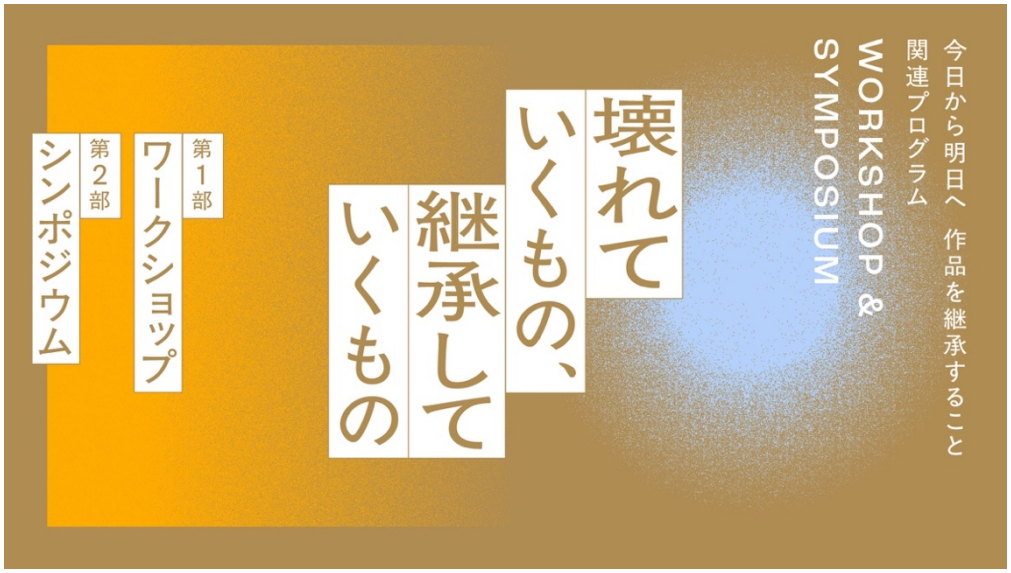
2026 年 10 月 7 日
金沢 21 世紀美術館

# 金沢 21 世紀美術館　「今日から明日へ　作品を継承すること」展 関連プログラム「壊れていくもの、継承していくもの」 開催について(お知らせ)




金沢 21 世紀美術館では、10 月 31 日より長期休館前の最後の展覧会として「今日から明日へ　作品を継承すること」展を開催いたします。その関連プログラムとして、エルメスジャポン株式会社とともに「壊れていくもの、継承していくもの」を下記の通り開催いたしますのでお知らせいたします。

つきましては、事前の告知、当日のご取材をいただけますよう、お願い申し上げます。

**「壊れていくもの、継承していくもの」概要**

本企画は、エルメスジャポン株式会社と金沢 21 世紀美術館が 2024 年から継続してきた協働を、さらに発展させるものです。これまで取り組んできた能登への支援や、アートを介した職人の技術と手仕事の継承を背景に、作品やものを未来へ受け継ぐことの意味を考えます。

美術館の展覧会「今日から明日へ　作品を継承すること」と呼応し、「壊れていくもの、継承していくもの」をテーマに、二つのプログラムを実施します。第 1 部では、金沢美術工芸大学において学生と一般参加者を対象としたワークショップを開催。第 2 部では、金沢 21 世紀美術館において一般公開のシンポジウムを行います。作品の修復と継承のプロセスを、アート、保存修復、ものづくりなどの多角的な視点から捉え直します。

主催：金沢 21 世紀美術館、(公財)金沢芸術創造財団、エルメスジャポン株式会社
協力：金沢美術工芸大学　金島隆弘研究室

**第 1 部　ワークショップ**

作品を未来へ継承するために、何を残し、どのような変化を受け入れるのでしょうか。保存修復を手がかりに考える、キュレーターズツアーとグループワークの 2 部構成のワークショップです。専門知識の有無を問わずご参加いただけます。

募集対象：18 歳以上の方（経験・所属等は問いません）

定員：24 名（応募者多数の場合は抽選）

1. キュレーターズツアー

金沢 21 世紀美術館で開催する「今日から明日へ、作品を継承すること」展のキュレーターズツアーを開催します。本展に限らず、金沢 21 世紀美術館の展示作品を保存修復の観点から改めて鑑賞し、将来への継承について考えたい作品を、参加者それぞれに選んでいただきます。

日時：2026 年 11 月 1 日（日）・11 月 8 日（日）16:00〜18:00

会場：金沢 21 世紀美術館

※いずれかの日程にご参加ください。いずれの日程にも参加できない方は、各自で対象作品についてリサーチを行い、ワークショップ当日に発表していただきます。

2. グループワーク

キュレーターズツアーで選んだ作品について、各参加者が自身の考えやアイデアを持ち寄り、保存修復の観点からグループディスカッションを行います。「保存上の困難を伴う」「維持することを目的としていない」「従来の保存の概念を超えている」「修復されることを前提としている」など、作品が抱えるさまざまな課題について議論します。

その後、各グループで 1 作品を選び、議論の内容とともに発表します。各発表に対して、保存修復の研究者・実践者である田口かおり氏からコメントをいただきます。

講師：田口かおり氏（修復家、京都大学准教授）

日時：2026 年 11 月 13 日（金）17:30〜19:00

会場：金沢美術工芸大学

※参加者 24 名を、4 名ずつの 6 グループに分けて行うグループワークを予定しています。

**第 1 部：ワークショップの応募締切・選考について**

応募締切：2026 年 10 月 20 日（火）13:00

参加ご希望の方は次のリンク申込フォームよりご応募ください：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSffEjy7yG9gT9ycMQw3HTe3oORc5WfrJtkozlxZJQkr5sfqNQ/viewform

応募結果は、当落にかかわらず、10 月 23 日（金）までにメールでご連絡いたします。

※第 1 部ワークショップ・第 2 部シンポジウムの両方にご参加いただくことが理想ですが、第 1 部のワークショップへの参加を必須とします。

**第 2 部　シンポジウム**

展覧会「今日から明日へ　作品を継承すること」で提起される、現代美術作品の修復と継承をめぐるシンポジウムです。ミクスト・メディアやメディア・アート、インスタレーションなど、従来の保存修復の枠組みでは捉えきれない作品を、どのように未来へ継承していくことができるのか。キュレーター、修復家、アーティスト、インストーラーらが、それぞれの立場から議論します。さらに、エミール・エルメス・コレクションとスカーフのものづくりを通して、エルメスが受け継いできた修復と継承の思想を紹介します。最後には登壇者によるラウンドテーブルを行い、「壊れていくもの」と「継承していくもの」の関係から、美術館とものづくりのこれからを考えます。

日時：2026 年 11 月 14 日（土）14:00〜16:30 (開場 13:30)　※途中休憩あり
会場：金沢 21 世紀美術館 シアター21
料金：無料（予約不要）
登壇者：田口かおり（修復家、京都大学准教授）
髙橋銑（アーティスト）
有元利彦（インストーラー、HIGURE17-15cas 株式会社代表）
野村大輔（アーティスト）
有賀昌男（エルメスジャポン株式会社取締役会長）
鷲田めるろ（金沢 21 世紀美術館館長）
モデレーター：角奈緒子（金沢 21 世紀美術館学芸課長）

**第 2 部：シンポジウムのご来場について**

事前応募やご予約は不要です。ただし、お席の数に限りがございますので、満席の場合には、入場をお断りする場合がございます。

**登壇者プロフィール**

**田口かおり（たぐち かおり）**

1981 年生まれ。イタリアのフィレンツェ国際芸術大学で絵画修復を学び、実務に従事した後、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了（博士：人間・環境学）。東海大学芸術学部准教授などを経て、2023 年から京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。専門は保存修復学、美術史、表象文化論。近現代美術の保存修復と調査研究に従事し、作品の物質性と経年変化、修復介入の倫理、真正性をめぐる問題に関心をもつ。著書に『保存修復の技法と思想―古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』『絵画をみる、絵画をなおす保存修復の世界』など。

**髙橋銑（たかはし せん）**

1992 年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程を 2021 年に修了。彫刻の保存修復に携わりながら、自身もアーティストとして作品制作を行う。保存修復の現場で培われた物質や技術への知識、作品を取り巻く人々との関わりを起点に、彫刻、映像、インスタレーションなど多岐にわたる作品を制作している。
近年の主な展覧会に「Reverse Cabinet」（Coex hall、ソウル、2025）、「リニューアルオープン記念特別展 Before/After」（広島市現代美術館、2023）、個展「聞かれなかった声」（LEESAYA、東京、2023）など。

**有元利彦（ありもと としひこ）**

1983 年東京都生まれ。インストーラー。東京スタデオ元代表・小澤洋一郎氏に師事、施工の仕事を学び、2011 年に HIGURE 17-15 cas を継ぎ代表となる。これまでに携わった展覧会は、「デイヴィッド・ホックニー展」（東京都現代美術館）、「カルティエと日本半世紀のあゆみ 『結 MUSUBI』展 ― 美と芸術をめぐる対話」（東京国立博物館）、「デザインあ展 neo」（TOKYO NODE）など多数。

**野村大輔（のむら だいすけ）**

1977 年東京都生まれ。NY の Parsons School of Design, Fine Arts 科卒業。卒業後テキスタイルデザインスタジオ就職。2006 年日本帰国、フリーランスデザイナーとして活動。2009 年 designboom 主催のエルメス・ネクタイ柄コンテストにて審査委員特別賞受賞。以来、エルメスのスカーフのデザインを多数制作。

**有賀昌男（ありが まさお）**

1957 年東京都生まれ。1981 年、伊勢丹に入社しファッション界でのキャリアをスタート。1989 年バーニーズ・ジャパンに出向、取締役 MD 統括長。コーチ・ジャパン エグゼクティブ・バイスプレジデント、ロエベジャパン CEO（最高経営責任者）を経て、2008 年 2 月にエルメスジャポン株式会社代表取締役社長に就任。2026 年 2 月より同社取締役会長。2013 年 1 月～2024 年 1 月、海外ファッションブランド協会会長。

**鷲田めるろ（わしだ めるろ）**

1973 年生まれ。東京大学大学院修士修了。準備期間から金沢 21 世紀美術館に関わり（2004 年の開館から 2018 年まで同美術館キュレーター）、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター（2017）、あいちトリエンナーレ 2019 キュレーターを経て、2020 年 4 月から十和田市現代美術館館長、2025 年 4 月から金沢 21 世紀美術館館長。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻准教授。
（撮影:小山田 邦哉）

問い合わせ先
〒920-8509　金沢市広坂 1-2-1　　金沢 21 世紀美術館　広報室担当:落合・吉冨・岩島
TEL：076-220-2814　FAX：076-220-2802
MAIL：press@kanazawa21.jp WEB:http://www.kanazawa21.jp/